



SVPインサイトVol.61

# ADAS(先進運転支援システム)

～世界市場の現状と将来展望～

## I.市場の定義

本レポートでは、新車に搭載される先進運転支援システム(ADAS)の世界市場を調査対象とする。ADASは、走行環境を認識し、衝突回避や運転負荷軽減を目的として警告・制御を行うシステムであり、ECU制御のもと各種機能が統合されている。調査対象には、衝突被害軽減ブレーキ、レーンキープアシスト(LKAS)、ACC、ESC、ドライバーモニタリング、駐車支援、交通標識認識など主要機能を含め、自動運転レベル2までの領域を対象とした。なお、システム主体で運転を担うレベル3以上の自動運転機能は対象外とする。市場規模およびシェアは車両搭載ベースで算出し、機能別およびシステム単位で分析している。

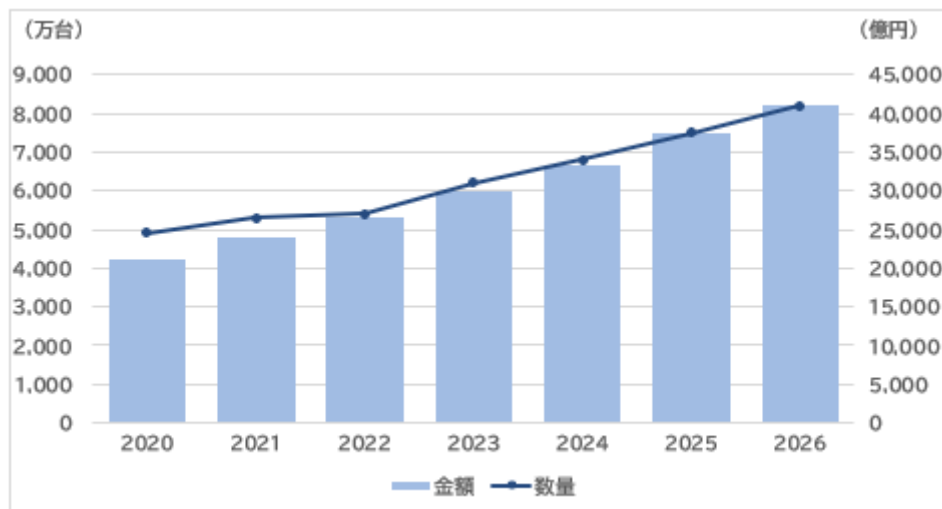
## II.市場動向

従来、ADASは高級車中心の装備であったが、各国の安全規制強化により普及が急速に進んでいる。2019年には日本・EUを含む約40カ国が衝突被害軽減ブレーキの新車搭載義務化に合意し、EUでは2020年、日本では2021年から適用が開始された。EUでは車線維持やドライバーモニタリングなど対象機能の拡大も進む。さらに2019年の合意を行っていない米国・中国でも搭載が進展しており、日米欧の主要市場では新車搭載率が既に90%超に到達。今後は高機能化の進展と新興国での普及拡大を背景に、ADAS市場は数量・金額の両面で成長が続く見通しである。

## III.市場規模・予測

ADASの世界市場は2023年に搭載車両数約6,200万台、金額ベースで約3兆円規模に達したと推定される。地域別では北米・中国がそれぞれ約25%と最大市場を形成し、欧州が約20%、日本が約7%で続く。日本と欧州では既に搭載率が90%超に達する一方、中国では普及拡大とともに高度化が進行中である。今後は新車販売の回復とADAS搭載率の上昇を背景に年率5%前後で成長し、2026年には搭載台数約8,200万台、約4.1兆円規模へ拡大すると予測される。数量拡大に加え、高機能化による単価上昇が市場成長を牽引する見通しである。

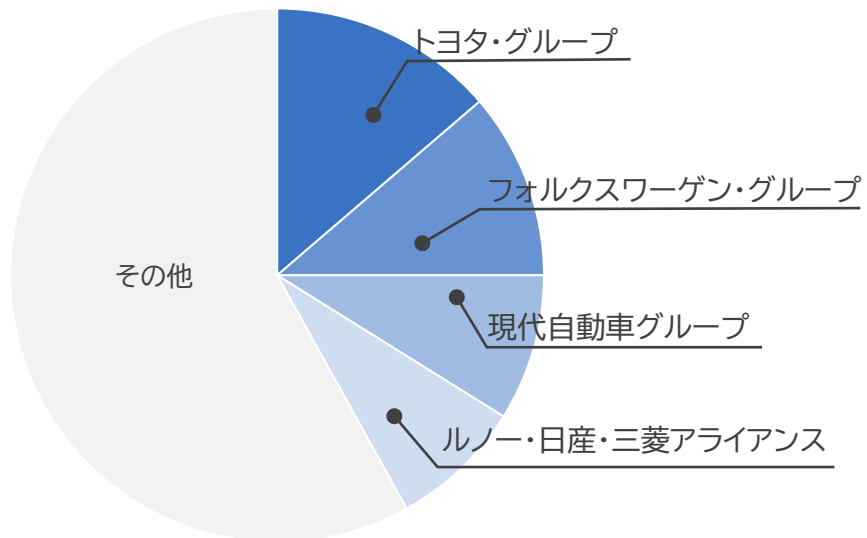
ADAS 市場規模推移(世界市場)



## IV.マーケットシェア

ADASは自動車メーカー主導で搭載が進んでおり、販売台数シェアが市場シェアに直結する構造となっている。2023年はトヨタ・グループが首位、フォルクスワーゲン・グループ、現代自動車グループが続く。上位メーカーはいずれもADAS搭載率が高く、新車販売シェア以上の存在感を示す。一方で「その他」が過半を占めており、市場は分散構造にある。今後は高度化競争により、上位メーカーの優位性がさらに強まる可能性がある。

ADAS マーケットシェア(2023年・数量ベース)



## V.参入企業の動向

市場では自動車メーカー主導の開発競争が加速している。トヨタ・グループは「Toyota Safety Sense」を軸にグローバルで展開し、累計搭載台数は3,000万台を超えるなど圧倒的な規模を誇る。フォルクスワーゲン・グループはソフトウェア子会社カリアドを中核に内製化を進めつつ、モービルアイなど外部パートナーとの連携で開発を加速している。現代自動車グループは自動駐車や半導体内製化など先進領域への投資を強化し、全車標準搭載を志向。ルノー・日産・三菱アライアンスは共通化戦略で効率化を図りつつ、日産の「プロパイロット」など高機能化を推進する。加えてホンダ、SUBARU、米ゼネラルモーターズ、テスラなども独自ブランドで差別化を図り、ADASは単なる安全装備から競争力の源泉へと進化している。

## VI.業界構造

ADASの開発は、予めシステムを自動車に搭載して販売する完成車メーカーを中心に、自動車部品メーカーや電子・通信機器メーカーが部品の供給や、共同開発を通じて連携する産業構造となっている。デンソーやポッシュ、現代モビリスなどが部品供給を担い、ソニーセミコンダクタソリューションズやLGエレクトロニクスなどがセンサー・半導体を提供。これら企業が共同開発を通じて技術を高度化し、最終的に完成車メーカーが統合・搭載する構図である。業界は単独開発からエコシステム型へと進化している。

1分でわかる

# SVP会員制 ビジネス情報サービス



# 1. ビジネス情報収集における環境の変化

環境の変化が激しく、将来の予測が非常に困難な時代に入

## 変化①



- ✓戦争の勃発
- ✓新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)の流行
- ✓気候変動

## 変化②



- ✓テクノロジーの進化
- ✓グローバル化
- ✓新世代の台頭
- ✓破壊的企業の躍進



組織的な課題に直面

## 2.企業が解決すべきリサーチ課題

社会・ビジネス環境の変化の加速により、  
これまで以上に、迅速かつ的確なリサーチ環境の整備が企業に求められている。

1

幅広いビジネス情報  
への迅速なアクセス

幅広い事象に関して、  
スピーディーにアクセスできる  
環境の整備



2

質の高い情報の獲得  
(重要領域での質の担保)

信頼できる上質な  
ビジネス情報を収集できる  
環境の構築



3

成長が期待される  
新市場の動向把握







事業機会の可能性がある全ての  
市場や企業動向を認識する  
ケイパビリティの有無



### 3.AI活用が進む中で、顕在化してきた情報収集の課題





企業は、リサーチ業務でのAI活用のメリット・デメリットを認識すべき。

#### AI活用により可能になったこと

-  学習データを対象とした情報検索の高度化
-  表作成、リスト化等の単純作業の自動化
-  海外・多言語情報へのアクセス
-  コスト削減とリソース最適化
-  要約・比較・仮説抽出の効率化
-  分析スピードの向上

業務効率の向上

#### AI活用により見えてきた課題

-  プロンプト作成・設計の難しさ
-  有料レポートや一次情報に未対応
-  ハルシネーションの問題
-  情報の取り扱い・機密性への配慮
-  ファクトチェックの必要性
-  調査・生成AIに精通した人材の不足

AIはリサーチ業務効率を高めるが、  
意思決定を支えるには不十分。

## 4.SVP会員サービスの提供価値



「WebにもAIにも載っていない、  
“意思決定のためのビジネスインサイト”を。」

### SVPサービスのポジショニング

AI時代における「ヒト×AI×独自情報源による一段上のリサーチ・ソリューション」を  
ベストコストでご提供

### 提供サービス

多様な情報源と調査手法を駆使した、会員制マーケットリサーチ・サービス

- リサーチBPOからカスタム調査、オリジナルの市場レポート、コンサルティングまで、  
ワンストップでご提供
- Webと生成AI、商用データベース、独自のライブラリーを対象としたデスクリサーチ、  
ヒアリングとアンケートによるカスタム調査など、幅広い情報源と調査手法を活用

### バリュープロポジション(提供価値)

- 市場調査とAIに精通したプロのリサーチャーによる調査実行
- Webと生成AIだけでは入手できない、意思決定に求められるビジネス情報を  
ワンストップでご提供
- リサーチBPOの活用により、顧客の社内人材が本業に集中できる環境の整備を支援

## 5. サービス一覧

SVP会員サービスは、年間契約で、リサーチBPOサービスとカスタムリサーチ、オリジナル調査レポートを提供しています。

1

### クイックリサーチ(リサーチBPOサービス)

活用シーン 短時間で全体像を掴みたい

- ・日々のリサーチ業務をアウトソースし、必要な情報を素早く整理・把握したい

特徴

- ・幅広いビジネス公開情報を横断的に活用
- ・AIとリサーチャーを活用し、目的に応じて調査・整理
- ・そのまま使える形にまとめてレポート提供



最短2日営業日以内

2

### プロジェクトリサーチ(カスタムリサーチ)

活用シーン 意思決定に耐える根拠が欲しい

- ・公開情報だけでは把握できない市場・業界・競合他社・顧客の実態を知りたい
- ・意思決定に活用できる、信頼性の高い情報を得たい

特徴

- ・調査設計から行うカスタムリサーチ
- ・一次情報の収集・検証により、判断に耐える根拠を構築
- ・調査から分析、コンサルティングまで、意思決定を支援



✓ヒアリング調査  
✓アンケート調査

3

### SVPナレッジ(オリジナル調査コンテンツ)

活用シーン 将来を見据えて視野を広げたい

- ・事業に影響する変化を把握したい
- ・メガトレンドや注目市場、最新技術の動向を継続的に知りたい

特徴

- ・注目市場の動向をレポートに整理
- ・事業検討に使える視点をコンパクトに提供
- ・信頼できるビジネス情報の収集を効率化



注目市場分析 月2回  
メールマガジン 月1回

## 6.導入実績



年間調査実施数  
約15,000件



商用DBシステム利用  
20システム



国内外企業財務情報  
4,000万社以上



SVPネットワーク  
世界40カ国の広がり

日本の売上高トップ100社中7割の企業でのご利用実績  
**導入企業600社以上**





—SVP JAPANのサービスについて—

2営業日以内に調査結果をご報告

**クイックリサーチ**

[詳しくはこちら](#)

カスタムメイドのリサーチサービス

**プロジェクトリサーチ**

[詳しくはこちら](#)



—各種お問い合わせ—

**資料ダウンロード**

[こちらをクリック](#)



**お問い合わせ**

[こちらをクリック](#)



s'il vous plaît  
**SVP JAPAN**  
株式会社SVPジャパン

まずはお電話でもお気軽にお問い合わせください。

**TEL:03-3249-0771**

